

2010年 12月 1日発行 (通巻25集)

webmodelers 増刊 プラモガイド

無料見本版

BIGスケール 戦闘機 Vol.1



Bf109G-14 (1/32 ハセガワ)

Fw190D-9 (1/32 ハセガワ)

鐘馗II型丙 (1/32 ハセガワ)

零戦21型 (1/32 タミヤ)

零戦52型 (1/32 レベル)

零戦52型 (1/35 ニチモ)

紫電改 (1/35 ニチモ)

web-modelers

webmodelers増刊 プラモガイドNo.2
Bigスケール 戦闘機 Vol.1

Bf109G-14 (1/32 ハセガワ)



Fw190D-9 (1/32 ハセガワ)



零戦52型 (1/32 レベル)



零戦52型 (1/35 ニチモ)



零戦21型 (1/32 タミヤ)



鐘馗 II型丙 (ハセガワ 1/32)



紫電改 (1/35 ニチモ)



Bf109G-14 (ハセガワ 1/32)

Hiromichi Taguchi

実機について

Bf109G-14は 予定していたG-10の就役が大幅に遅れたため、急遽 1944年5月に "つなぎ"として生産が開始されました。DB-605AMエンジンに 中高度以下で使用するMW 50パワーブーストを追加装備して、出力向上を図り、96オクタンの C3燃料を使うようになったため、胴体のパワーブースト用燃料口に C3指定マークが入っています。このG-14は、5000機近くが生産されています。

時期により、G-6と同じ金属製尾部と、垂直尾翼が大型化された木製尾部の2種が存在します。また、キャノピーは G-10用に Eria社が開発した "エルラ・ハウベ"とよばれる後端まで 一体で開くキャノピーが 装備された機体もあります。仕様が一定していない原因の一つに、連合軍の空爆によるラインの混乱があったともいわれています。

キットの印象

ハセガワのキットは1/32を簡単に組めるコンセプトで 設計されたキットだけあって、パーツ点数が少なく、部品の合いは抜群。機体デッサンは的確で、修正点も見当たらず、ストレートに 1/48よりも 楽に組めるといった印象のキットです。フラップダウンと主翼前縁自動スラットの開状態も選べるようになっています。ただし、機体表面はほとんどリベットモールドもなく、凹パネルラインだけの 極あっさりしたキットです。

今回製作したG-14は 木製大型尾翼と"エルラハウベ"キャノピーの装備機としました。マーキングは、別売りデカールが多く発売されている中からイーグルカル製を使用しています。

1/32ほどの大型キットとなると、面モールドがシンプルだと どうしても大味となりがちです。それで、リベットを全面に追加して打ってみました。手間はかかりましたが、それだけの効果はあったようです。

それでは、製作に入って行きましょう。



製作

胴体

胴体はバリエーション展開のため、垂直尾翼部分を選択式にしたために、前後で2分割になっています。(写真) 合わせはいいのですが、前後接着部での段差を防止するために、まず、机の平面上に置いて、ゆがまないように、半身毎に前後を接着するようにします。

接着剤はタミヤの流し込みタイプがこういう場合には使いやすいようです。また、機首上面の機銃カバーと胴体部で若干段差がでますが、薄めに溶いたパテで均して修正します。



平面台の上でゆがまないように前後を接着する。

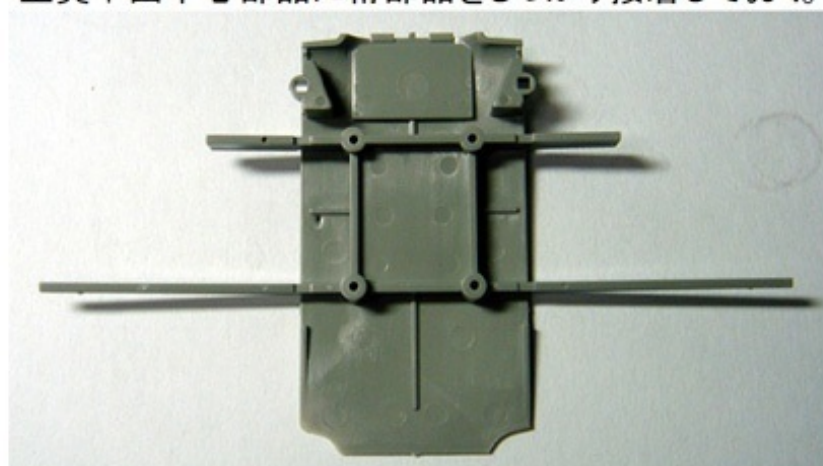


主翼

大型キットには珍しく、主翼下面も左右中と3部品に分かれています。幸い主翼上半角を決める桁部品(センタースパ)が付属していますので、主翼下面中心部品に桁部品をしっかりと接着しておきます。(写真)

主翼下面パネルに WGr21ロケット弾の取り付け用らしき、7個の差込穴がありますが、ロケット弾は付属していませんので、この穴はパテでふさいでおくといいでしょう。

主翼下面中心部品に桁部品をしっかりと接着しておく。



コクピットの製作

飛行機モデルではここを作らなければ始まらないコクピットですが、部品点数も少なく、塗装をキチットするだけで実感抜群のものが出来上ります。(写真1)

指定どおりに胴体内部と床板、座席などを全て RLM66ブラックグレー (Mrカラー No.116)で塗装し、後は、各部をチマチマと塗りわけ。多少のフィクションも有ります。最後に、軽くドライブラシをかけておきました。黄色いホースがよいアクセントになります。

(写真2) 塗装した計器板



リベット追加

リベット打ちは、まず全面を1000番のサフェーサーで塗装し、十分乾燥させた後、行っています。

まず、図面を見ながら、鉛筆でリベットラインを下書きします。(写真)

透明プラ板で長さ10cmくらいのテンプレートを作っておくとやりやすいでしょう。この下書き線の上に、テンプレートを当てながら、リベットを ゆっくりと カルコなどで打ってゆきます。

最近は (写真3)の「リベットルーレット」が楽チンなので使っています。これを使うと、あんなに苦痛だったリベット打ちが、短時間でできてしまいます。このリベットルーレットは ホビーショップ「ガネット」から通販で入手できます。

(写真1) コクピットは追加工作せずとも、塗装だけでここまでの出来になる。



計器板は デカールを貼るもよし。デカールを使わずに、(写真2)のように 細筆で塗装しても 32は部品が大きいので 目が楽です。塗装の場合は、全面ブラックグレーで計器は黒。目盛りと針が 白か夜光緑。ところどころ、黄色と赤でアクセントをつけています。

鉛筆でリベットラインを下書き



(写真3) リベット・ルーレット



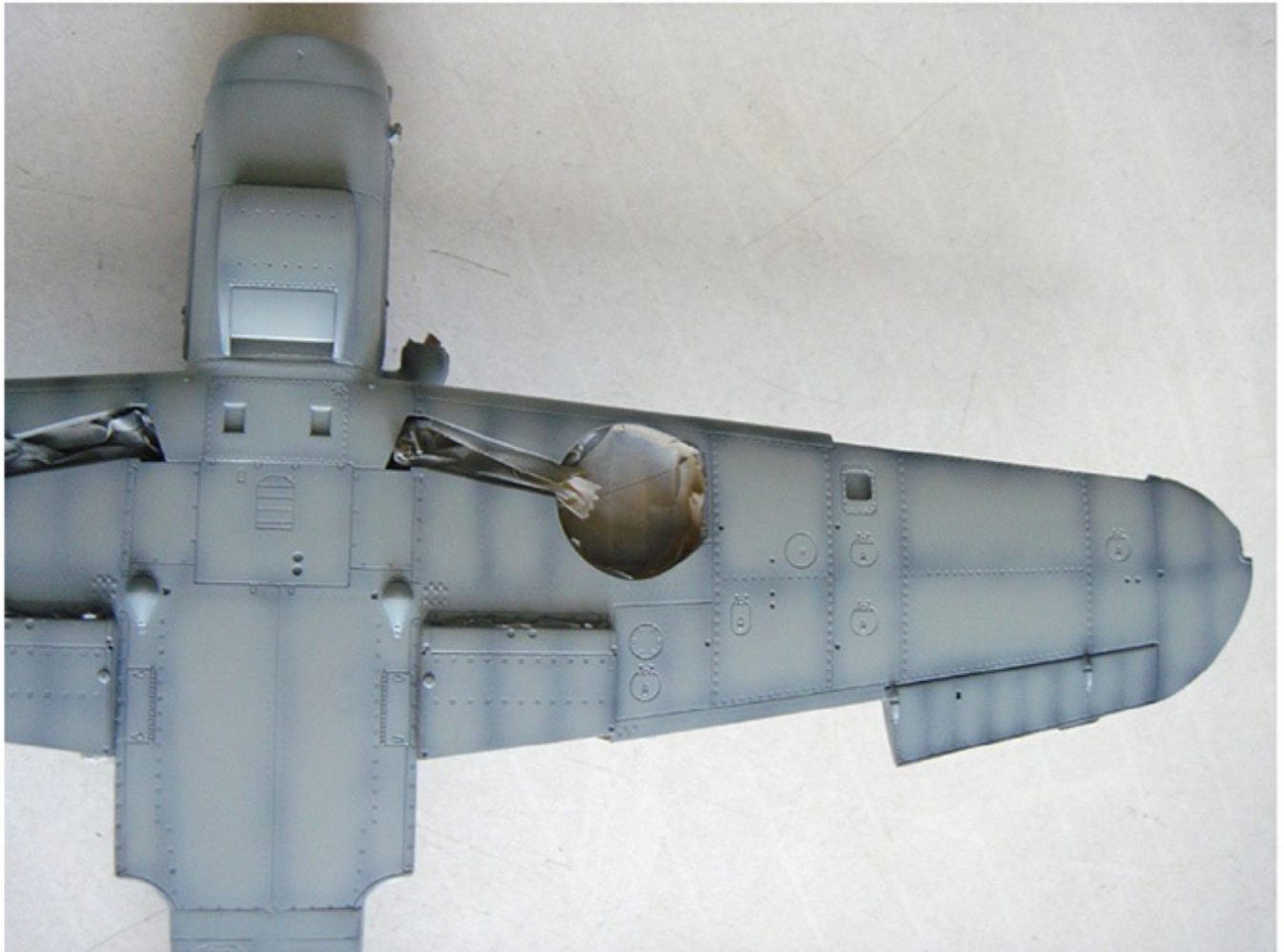
塗装

塗装には ラッカー系のMr.カラーを常用しています。パネルラインとパネル部で微妙なグラディエーション表現をするために、まず、パネルラインとリベットラインの上をブラックグレー(MrカラーNo.116)を先に塗装しておきます。

そして、この暗いグレー部分を少し残すようにパネルの中に機体色をエアブラシで吹いて行くと、グラディエーションがついて行きます。このままでは、いかにもという感じでいやらしさもありますので、最後に全面に薄く同色を吹きつけ、グラディエーションをなじませ、自然な感じにします。(写真4)

塗装には キット説明書指定どおり、
下面 RLM76 ライトブルー 特色 No.117
上面 RLM74 グレーグリーン No.36
RLM75 グレーバイオレット No.37
を使いました。このMrカラーの No.36と No.37は 以前はちょっと疑問があるグレー色でしたが、最近 リニューアルされていて、色合いが正確になっています。ラベルをよく見て ぜひ買い直してみてください。
また、今回のマーキングの機体には 機首と胴体に RLM04イエローのバンドがあるので、発色をよくするために、白で下塗りした上に、イエローを塗装しています。(写真6)

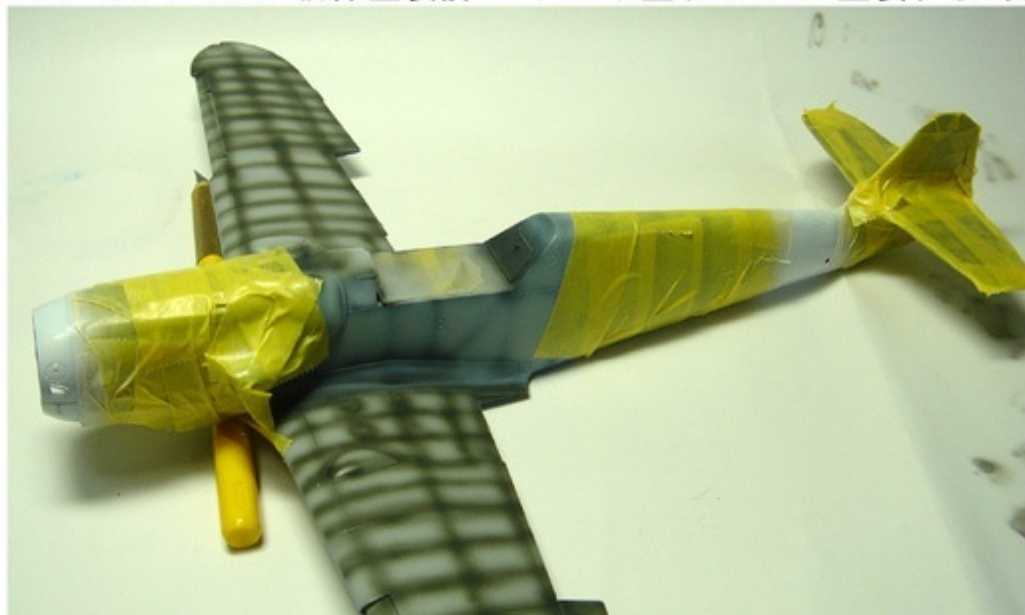
(写真4) 下面は RLM76ライトブルー。
グラディエーションがつくように 塗装すると 実感が増す。



(写真5) 胴体も RLM76 でグラディエーションをつけて 塗装している。



(写真6) イエローのバンドは 胴体塗装前に 白で下塗りした上に塗装すると発色が良い。



機体上面のモットリング塗装

RLM74 グレーグリーン No.36

RLM75 グレーバイオレット No.37

で主翼上面、機体上面を塗装しますが、胴体側面のモットリングもこの2色を使います。まず、RLM74のモットリングを吹きます。

さて、モットリングのコツですが、一つの斑点をその大きさのまま、いきなり吹くのではなく、エア圧を絞って、ごく小さい斑点を5つか6つ吹いて、その集合で一つの斑点にしますと、大きさや形を自由にコントロールできます。(写真7)

次に、その上に重なるように薄く、RLM75 グレーバイオレットで小さい斑点をつけて行きます。すると、色が微妙になじんでゆくのを感じられると思います。

斑点が大きくなりすぎた場合は、後で下地のライトグレーをからませるように吹いて修正すればOKです。

スマイレですが、しっかり乾燥させた後、黒を使わずに茶系の油彩ローアンバーなどを使うと、ナチュラルにパネルラインがはっきりとしてきます。エルロンなど可動部には濃い目で使うと良いでしょう。

(写真7) 機首のモットリング



(写真8) 胴体のモットリング



(写真9) 機体上面の塗装が完了したところ



デカール

マーキングは 別売りの イーグルカルデカールを使用しています。少し厚めですが、白も下地が透けず、黒などの印刷もはっきりしていて 良いデカールです。Mr. マークセッターと マークソフターを使って、キツに しっかりとなじませて、デカールの周りの透明部は 乾燥後 できるだけ カミソリで切り取っておきます。最後に、デカールの保護のため 全面に フラットクリアを吹き付けて、塗装は完了です。

小物取り付け

主翼ラジエーターフラップの接着はイモ付けに近いので、注意しながら、左右で角度が同じになるように取り付けましょう。プロペラスピナーの うずまきは、下書きをして、ブラックで塗装としました。

主脚は、取り付け角度に注意しながら 接着しますが、折れやすいので、最初から根元に補強の金属線を入れておいた方がよいでしょう。

ループアンテナは 洋白薄板で自作。特徴的な主翼下アンテナも、金属で作り変えています。

キャノピーは 枠を塗装しても透けやすいので、枠をブラックグレーで下塗りしておき、その上に胴体色を塗装すると、下が透けません。また、頭部の防弾ガラス断面も忘れずにブラックグレーで塗っておきましょう。透明度がよいので、映えます。

シートベルトは 板鉛で追加しておきました。



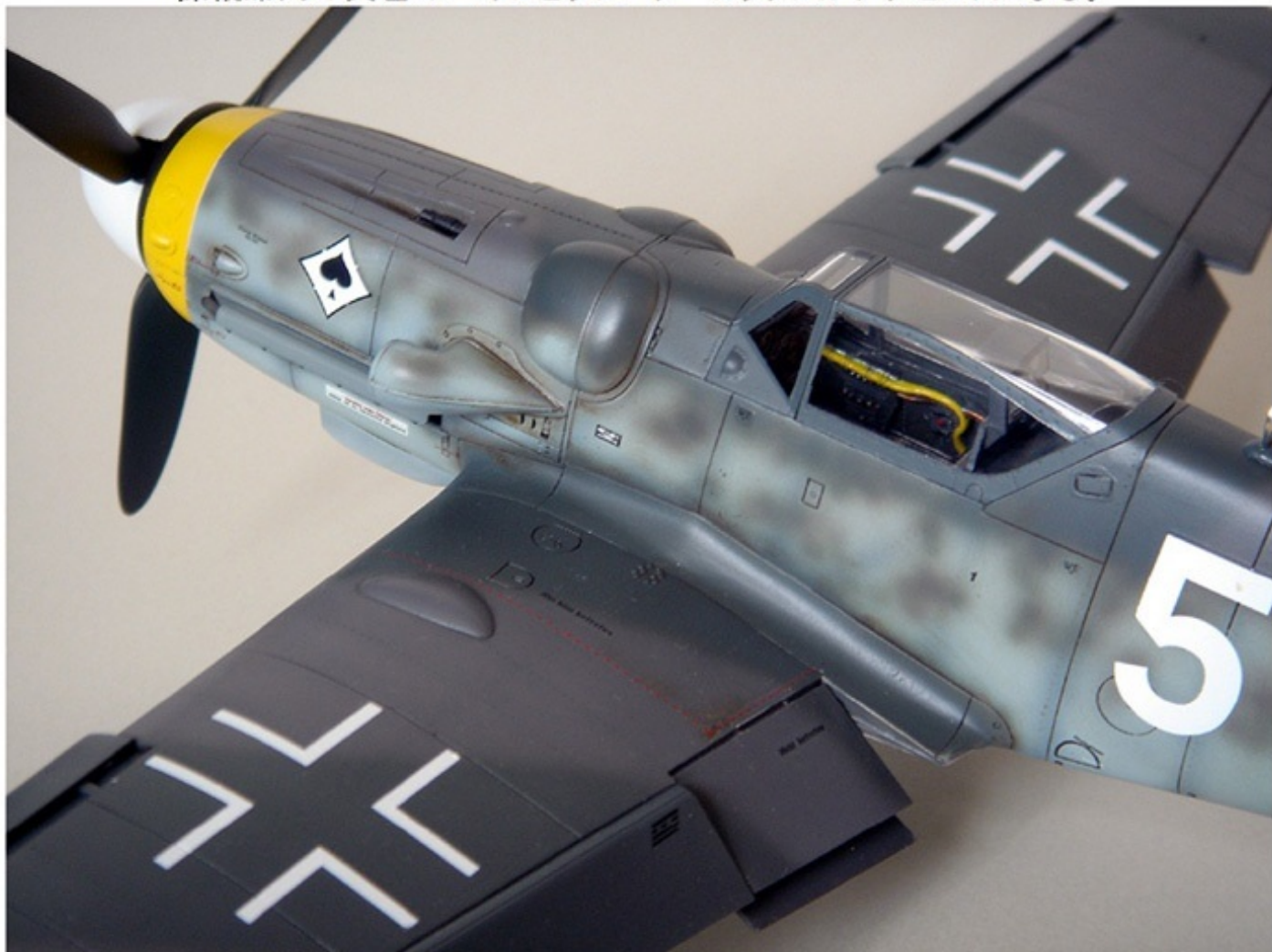
完成

モットリング塗装のメッサーは 凄みがありますね。ハセガワの新1/32シリーズは、簡単に完成する割りには プロポーションがよく、誰にでも 素晴らしい完成品が楽しめると思います。

ぜひ あなたのキットを 押入れから出してきて 完成させて みてください。モスポールされた 可哀想なキットが あなたのプラモライフに きっと お役に立つことは 間違いありません。



操縦席内の黄色のパイプとラジエターフラップがアクセントになる。



さあ 作ってみよう！

